

2023 AC

The 2nd Celebrate Hanukkah

原語で味わう創世記第2章

12/24~31

No.7 27日(夜)

「創世記2～3章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】

イザヤ書34章16節

主の書物を調べて読め。

これらのもののうち、どれも失われていない。

それぞれ自分の伴侶を欠くものはない。

それは、主の口がこれを命じ、

主の御霊がこれらを集めたからである。

※ 「自分の伴侶」にたとえられているのは、神のみことばの証言が必ず伴侶のように置かれているということの意味します。それに出会わせてくれるのは御霊です。

「創世記2～3章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】
イザヤ書 46章10節

わたしは後のことを初めから告げ、
まだなされていないことを昔から告げ、
『わたしの計画は成就し、
わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。

①ここには強調するために、パラレリズム修辞法が使われています。

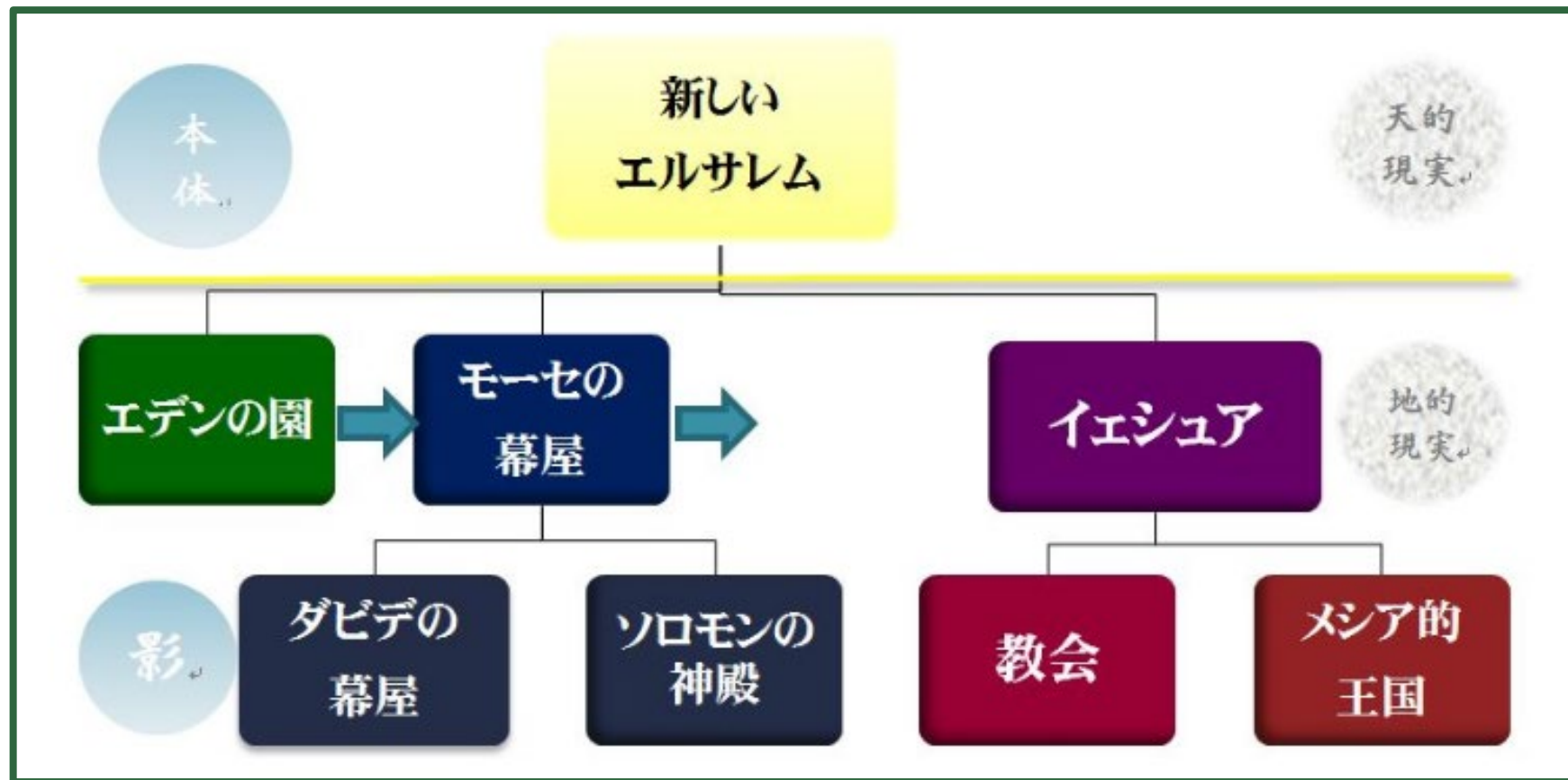
②初めのなかに後のこと、まだなされていない将来のことが
折り重なるようにして(重層的に)告げられているということです。

「・・・こと」とは「神のご計画」のことです。

これを知るためには、たましいではなく、霊の中で悟る必要があるのです。

「エデンの園」の本体は「新しいエルサレム」

- それは「天」にあり、しかもすでに完成されているのです。



1. これまでの流れ ①

- (1) 神である主が地における大地のちりて人を形造り、その鼻からいのちの息を吹き込むことで、人は生きるものとされました。主と人は顔と顔を合わせています。そのとき、地と天はつながったのです。
- (2) 神である主はその人を「エデンの園」に置かれ、そこに見るからに好ましく、食べるのに良いすべての木を、そして園の中央にいのちの木を、また善悪の知識の木を生えさせました。それだけでなく、そこに一つの川が湧き出て、園を潤していました。「木」と「川」は人が食べ飲みするたとえです。「木」は神(キリスト)のことばを、「川」はいのちの水の流れである聖霊を象徴しています。
- (3) 神である主は人をエデンの園に連れて来て、そこに置かれました。その行為には、「結婚」と「安息」の概念が含まれていました。

1. これまでの流れ ②

- (4) さらに、人にはエデンの園を「耕し、守る」という務めが与えられました。その務めとは「王である祭司」としての永遠の務めです。
- (5) 人の務めに対して、ねたみを抱いたケルヴ(全きものの典型であり、知恵と美の極みとされていたケルヴ=ルシファー)がすでにエデンにいたことを想定しました。敵意はエデンの園から始まり、メシア王国の最後まで(歴史の初めから終わりまで)存在します。
- (6) そして、人に対するはじめての命令が語られます。その命令とは、「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ」というものです。今回は、この命令が意味することを取り上げます。

2. 「2章16～17節」のテキスト

【新改訳2017】創世記2章16～17節

16 神である主は人に命じられた。

「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。
その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

(1) 「命じた」 「ツアーヴァー」 (צִוָּה) 。旧約=496回。

(2) 「思いのまま食べてよい」 (=大いに食べなさい=必ず食べなさい)

「アーホール・トーヘール」 (אָהוּל תּוֹהֵר) 独立不定詞+未完了

(3) 「食べてはならない」 「ロー・トーハル」 (לֹא תֹאכַל)

(4) 「それから」 「ミンメヌー」 (מִמֶּנּוּ)

(5) 「必ず死ぬ」 「モート・タームート」 (מוֹת תָּמוּת) 独立不定詞+未完了

3. 「命じられた」(「ツアーヴァー」 אָרַף) ①

●16～17節は、主が「命じた」ことばです。ところが以下の16節は、命令というよりも、許容的な表現になっていないでしょうか。

「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。」

※新共同訳は「園のすべての木から取って食べなさい」と訳しています。

●創世記2章9節には「神である主は、その土地に、見るからに好ましく、食べるのに良いすべての木を、そして、園の中央にいのちの木を、また善悪の知識の木を生えさせた」とあります。つまり、主は人に食べさせるために、木(=神のことば)を生えさせたのです。つまり「すべての木を食べさせる」ために、「生えさせた」はずです。

3. 「命じられた」 (「ツアーヴァー」 צוּרָה) ②

16 神である主は人に命じられた。
「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。」

トーホール アーホール エーツ・ハツガーン ミツコール レーモール アル・ハーアーダーム エローヒーム アドナイ ヴアイエツァヴ
:וַיִּצַו יְהוָה אֱלֹהִים עַל־הָאָדָם לֵאמֹר מִכָּל עֵץ־הַגָּן אָכַל תֹּאכַל :
あなたは必ず食べよ その園の木の すべてから と言って その人に 神である 主は 命じられた

- 「あなたは思いのまま食べてよい」「アーホール・トーホール」(אָכַל תֹּאכַל)は、文法的視点から「あなたは必ず食べなさい」と訳すことができます。なぜなら、17節にある「あなたは必ず死ぬ」と訳された「モート・タームート」(מֹת תָּמוּת)と同様、「不定詞+2人称単数男性未完了形」(同じ子音が重ねられている)はヘブル的強調法です。つまり16節は「あなたは園のすべての木から必ず食べなさい」という強い命令のことばです。なぜ強い命令が語られたのかと云えば、それは「神の予知」によるものです。

4. 「ミンメヌー」 (מִנְמֵנוּ) ①

17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。
その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

ミンメヌー トーハル ロー ヴァーラー トーヴ ハッダアット ウーメーエーツ
מִנְמֵנוּ תֹאכַל לֹא טוֹב וְרָע הַדַּעַת הַזֶּה מִן הָעֵץ
それから あなたは食べるな 悪 と 善 その知識の 木から

タームート モート ミンメヌー アハールハー ベヨーム キー
תָּמוּת מוֹת מִנְמֵנוּ אֲכַלְהָ בַּיּוֹם כִּי
あなたは必ず死ぬ それから あなたが食べる 日に なぜなら

● 17節には「それから」を意味する「ミンメヌー」がありますが、それが訳されていません。明らかに「善悪の知識の木」だけを指しています。

4. 「ミンメヌー」 (מִן־מֵנוּ) ②

17節 「しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。」

וּמֵעַץ הַדַּעַת טוֹב וְרָע לֹא תֹאכַל מִן־מֵנוּ

それから あなたは食べるな 悪 と 善 その知識の 木から しかし

- 17節では「ミンメヌー」によって、善悪の知識の木に限定されて、そこに焦点が当てられて強調されているにもかかわらず、新改訳は「それから」を意味する「ミンメヌー」(מִן־מֵנוּ)が正しく訳されていません。その点、新共同訳は「ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない」と訳しています。木全体の中からそれだけを取り出して食べることを、主は警告しているのです。
- 「ミンメヌー」は創世記2～3章で8回も使われています。「それから」の「それ」を指し示すものが男性形か女性形かによって異なっています。ちなみに「善悪の知識の木」の場合は男性形、「大地」の場合は女性形(הַמֵּנוּ)です。

4. 「ミンメヌー」 (מִן־מֵנוּ) ③

- 17節には、明らかに「善悪の知識の木」を指し示す「ミンメヌー」が二回も使われています。このことは何を意味するのでしょうか。創世記2～3章において、「ミンメヌー」は「善悪の知識の木」にだけ使われています(2:17, 3:3, 5, 11, 17, ※22「われわれの」)。※は後日、学びます。
- 「ミンメヌー」は、「～から、～の中から」を意味する「ミン」(מִן)が二つ重ねられた形のמִן־מֵנוּの語尾に、3人称代名詞の「フー」(הוּ)が付されたものであり、その「ヘー」(ה)が省略されて「ミンメヌー」(מִן־מֵנוּ)となったものです。つまり「それから」「その中から」というきわめて限定的なことが強調されているのです。
- 「善悪の知識の木」も本来は神のことば(木)として、人が食べるべきものとして置かれています(No.4参照)。ですから、「すべての木」ではなく、「善悪の知識の木だけ」を食べることが警告されているのです。

5. 「必ず死ぬ」 ①

●ところで、なぜ「善悪の知識の木」だけから食べることで「必ず死ぬ」ことになるのでしょうか。イエシュアが来られるまでそのことが明らかにされることはありませんでした。「いのちの木」であるイエシュアが現れることによって初めて、「善悪の知識の木」だけでは死をもたらすことが明らかにされたのです。

●使徒パウロは、この「善悪の知識の木」のことを「罪と死のトーラー」と呼びました。彼はそれに支配されていることに全く気がつきませんでした。しかしイエシュアと出会うことによって、「いのちの御霊のトーラー」(いのちの木)であるイエシュアこそが「罪と死のトーラー」(文字に仕える者、律法主義)から解放してくださる方であることに、霊の目が開かれたのです(ローマ8:2)。

5. 「必ず死ぬ」 ②

● 「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか」(マタイ19:16)。この「どんな良いことをすればよいのか」という問いこそが、罪と死をもたらす教えなのです。これは**律法主義**、この世の「**幼稚な教え**」(複「**ストイケイア**」στωικεία)です(ガラテヤ4:3, 9、コロサイ2:8, 20)。【新改訳2017】では「**この世のもろもろの霊**」と訳しています。この教えを「**文字(もんじ)による、死に仕える務め**」とも言っています(Ⅱコリント3:6~7)。つまり「**宗教の教え**」なのです。

● 割礼、断食、食物規定、いけにえ、安息日を形式的に守ることは「**罪と死をもたらす教え**」(律法主義)であり、「**善悪の知識の木**」だけを食べることなのです。しかしそれらの真の意味を悟らせて、実現に至らせるのが「**いのちの御霊のトラー**」、「**いのちの木**」である**イエシュア**なのです。

今回のまとめ 「神の予知」 ①

- 「**神の予知**」は、聖書には二箇所しかありません。

①【新改訳2017】使徒の働き 2章23節

神が定めた計画と神の予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは律法を持たない人々の手によって十字架につけて殺したのです。

②【新改訳2017】I ペテロの手紙 1章2節

父なる神の予知のままに、御霊による聖別によって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人たちへ。 . . .

- 「神の予知」とは何でしょうか。「予知」ということばの背景には、サタンの意志も、またサタンが支配する人間の意志も、あらかじめ神が知っておられるということです。そのことを「神の予知」と言います。神の計画と選びは神の意志100%ですが、それに従い、あるいはそれに逆らう人の意志も100%なのです。

今回のまとめ 「神の予知」 ②

●エデンの園にいたサタンがどういう思いでいるか、人に何をするかを神は予知しておられました。ですから、神はあらかじめ人に警告的な命令をなされたのです。

16 神である主は人に命じられた。「あなたは園の(すべての木から必ず)食べよ。」

(「どの木からでも思いのまま食べてよい」ではなく)。

17 しかし、善悪の知識の木(それだけ)から、食べてはならない。

その木(だけ)から食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

●神にはすべてが「想定内」です。なぜなら、神は全知なるお方だからであり、神の計らいは私たちの思いを超えているのです。